



フォークリフトポケットブック
(荷役作業安全ガイドライン対応)

家族が見守る安全運転

(家族の写真を貼って下さい)

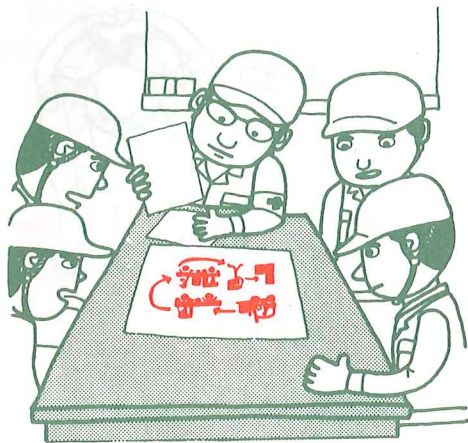


フォークリフトポケットブック (荷役作業安全ガイドライン対応)

このポケットブックは、フォークリフトによる災害の防止に役立てるため、運転者がフォークリフトの運転等の作業を正しく、安全に行うよう、日常、知っておかなければならないことを重点に収録したものです。

1-③ 作業開始前に打ち合わせをしよう

- 作業に取りかかる前に、作業指揮者と打ち合わせ、作業計画どおり作業を行う。
(注) フォークリフト作業では、作業計画の作成が必要です。
- 今日の作業についてKYを行おう。



1-④ 作業開始前に フォークリフトの点検をしよう

点検項目は、

- 制動・操縦装置の機能
- 荷役・油圧装置の機能
- 車輪の異常の有無
- 前（後）照灯・方向指示器・警報装置の機能

点検手順は、

- 外回り点検
- 車上点検
- 徐行点検



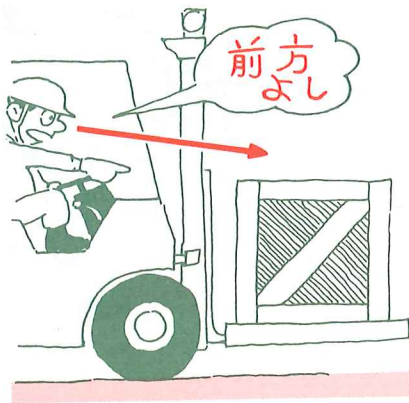
(参考)「DVD フォークリフトの作業開始前点検の進め方」(陸災防)

2 運転中には

(走行の基本)

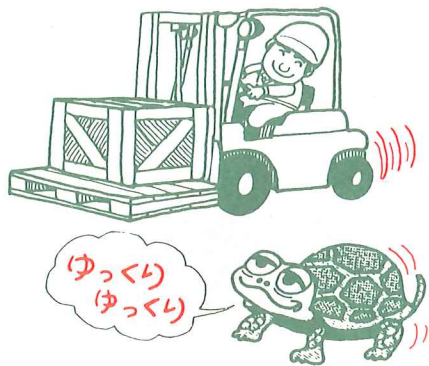
2-① 指差呼称を励行しよう

- シートベルトが装着されている場合は必ず着用する。
- 指先と目標を一致させ、確認する箇所を確実に指で差しながら呼称する。
- 発進する時、右・左折する時、旋回する時は必ず実行する。



2-② 制限速度を守って運転をしよう

- 決められた制限速度を守ろう。
(注) 作業場に決められた制限速度がない場合は、荷の積載時は低速領域 (時速 6 ~ 8 キロメートル)、空車時は高速領域 (時速 15 ~ 25 キロメートル) とする。
- 場所や荷の状態により、さらに安全な速度まで落として運転する。



災害事例

このような例があります。

❗ フォークリフトが横転した

曲がり角で、速度を落とさずに急旋回したところ、フォークリフトが横転し、コンクリート路上に放り出され頭部がフォークリフトのヘッドガードと地面に挟まれ死亡した。



対策

- 旋回するときは特にゆっくり運転する。
- シートベルトを着用する（装着車）。